

立科町テレワーク推進会議 議事録

1 会議概要

日 時 平成 29 年 8 月 1 日 (火) 午後 1 時 30 分から
場 所 立科町ふるさと交流館芦田宿
出席者 別添一覧表のとおり

2 あいさつ (米村町長)

皆さんこんにちは。第2回の立科町テレワーク推進会議ですが、今回私も出席をさせていただいた。本当に、皆さんにご協力を頂きながらこのテレワーク事業というものを進めて行きたいと思っている。いろいろな部分で、いろいろな方たちがどういう風な形で仕事を生み出していけるのかなという所。そういう中で、皆さんとも話をしていきながらこの立科町にどういうものを残していけばいいのだろうかということ積極的に議論していきながら、構築していきたいと思っている。

行政としてもしっかりとサポートしていきながら、この新しい事業を作り上げていきたいと思っている。どうか忌憚のないご意見をいただきながら皆さんと共に進めて行きたい。よろしくお願いします。

(司会：田口係長)

それでは会議に先立ちまして、本日 2 回目の会議からこちらの会議に参加を頂くメンバーの方がいらっしゃるって、そちらのご紹介をさせていただきたいと思います。

本日の会議から株式会社 FMBee. の高畑様にご参加いただきます。高畑様ですが、大阪に本社を構えてシステム会社を運営されている方。奈良県三郷町でテレワークの推進に関する委員をされており、この 5 月には総務省近畿総合通信局におきまして、ふるさとテレワーク推進事業の基幹システムの開発などテレワークの地域展開に先導的な役割を担ったとして、近畿情報通信協議会会長表彰を授与されています。

あと、新経済連盟の蒔田様。蒔田様におかれましては、昨年度になりますが、町が総務省の地方創生人材支援制度に手を上げたところ、国からご紹介をいただいた方になり、雇用形態がマッチしなかったということで、残念ながら派遣には至らなかったのですが、町の進めていく先進的な取り組みの会議に参加していただくということで、本日お越しいただいています。蒔田さん、簡単に自己紹介を。

(蒔田氏)

自己紹介。

(司会：田口係長)

それではこれから会議に入りますが、議事の進行については議長である山浦副町長の方で進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(山浦副町長)

それでは皆さん改めましてこんにちは。本日第 2 回のテレワーク推進会議ということでこれから始めさせていただきます。円滑に議事進行していきたいと考えているので皆さんのご協力をお願い致します。それでは議事に移らせていただきます。皆さん会議の次第がお手元にあるかと思う。会議事項の(1)

ということで推進会議構成員の追加について事務局から説明をお願いします。

3 会議事項

(1) 推進会議構成員追加について

※事務局から資料1の説明

(山浦副町長)

皆さん、ご賛同いただけるか。

(委員)

異議なし。

(山浦副町長)

ご賛同いただけただけということで、これからのテレワーク推進会議の構成員ということで高畑さんにもご協力いただくということで皆さんよろしくをお願いします。

次に(2)セミナーの開催報告と次回セミナーについて、まず、午前中のセミナーについて牧内さんから説明を。

(2) セミナーの開催報告と次回セミナーについて

(牧内氏)

今日は10時から11時半からということでママのための新しい働き方というこのようなセミナーを開催した。内容は、本日も参加いただいているネットワンシステムズの手塚さんと塩尻市の振興公社の柳澤さんをゲストに迎えてテレワークとは何か、手塚さんからこういう働き方があるという新しい働き方のご紹介だとか、柳澤さんからは塩尻市のKADOという場所でテレワークを実際に仕事も数年やっているの、そちらの方がどのように立ち上がって、今どのようなお仕事をしているかといったお話をさせていただいた。

後半では実際参加されたお母さんたち11人いらしていただいて、お子様もいらっしゃって、今日は11人のお母さんに対してお子様が7人おり、2階で託児をちょっとお試しでやったりもした。11人のお母さんたちがテーブルトークで2つのグループに分かれて、今日聞いたお話で実際自分もテレワークで働きたいとか、働くためにどんな障害があるとか、今までどんなお仕事をしてきたとかかそのようなお話をざっくばらんにさせていただいた。

参加されたお母さん方が今日のお話を聞いて、ぜひ立科町でテレワークで働いてみたいということで今アンケートを見たところ、皆さんテレワークで仕事をしたいと思いますか？の回答には「はい」という前向きな回答をいただきました。

(手塚氏)

やっぱり皆さんとても最初の一步が踏み出せないというか、どうしたらいいかわからないとか、ためらってらっしゃるとかいうお話がやっぱりディスカッションの中では出てきた。

なので、どちらかというとなんか一歩、確かに最初はハードルが高いかもしれないけども、でも踏み出してみるといろんな人にも会えたり、いろんな情報が手に入ることがすごく多いので、そういうことが逆に言うと自分が悩んでいるときとか不安に思っていることを解消することにも繋がっていくので、もったいないからぜひ踏み出してみましようよ。というようなお話を、非常に皆さん、

「パワーもらいました」とか「勇気もらいました」ということをおっしゃってくださった。

やっぱり難しく捉えていたりとか不安に思っていたりということが最初の一步を踏み出すところの歯止めをかけてしまっているのではないかとということがすごくあるので、なのでこういうセミナーみたいな機会を受けることによっていろんな方との交流の機会を増やしていくとか、いろんな人と会える場所をどんどん作っていくということが、ちょっと一步踏み出せないそういう育児をやっている女性の方にしてみると、すごく刺激にもなるし、またやってみようという一つの勇気というかきっかけになるかなと思うので、続けていくといいのではと今日すごく実感した。

(荻野氏)

キャリアとして設計図を描いたことがある方がいらっしゃったり、営業の仕事をしている方がいらっしゃったり、いろいろ実際に話を聞いてみるとその人それぞれの持っている潜在能力というのが本当に多様だと感じた。それと同時に、まったく今まで販売向けの仕事をしていたので事務の経験がないからパソコンを触って仕事をするができるかわからないという不安を抱えているとおっしゃっている方もいた。

こうやって皆さん集まって話してみると、本当に生の声が聞けるというのが実感できたので、このセミナーに参加してみて私自身とても勉強になったし、きっと参加者の皆さんも自分と同じような悩みを抱えている人たちに出会えたことで、またちょっと一步踏み出す勇気になってくれたのではないかと思う。

(山浦副町長)

ネットが繋がったようなので(2)途中だが、高畑さんから自己紹介を。

(高畑氏)

自己紹介。

(山浦副町長)

それでは、議事に戻る。事務局から次回セミナーの説明を。

※事務局から資料2の説明

- ・次回セミナーの説明について

※事務局から資料2について説明し、その後出席者から発言

(米村町長)

今日ママさんたちが集まった中で、みなさんからお話があったのだけど、年代的に言うと子育て世代という人たちがほとんどなのか？

(牧内氏)

そうですね。セミナーのタイトルに「ママ」と入れたのでたぶんお子様を持っている女性だった。今日は全員。

(米村町長)

大体あの年代のそういう子育て世代は大体どれくらいいるかは調査しているか。

(牧内氏)

未満児がどのくらいいるかと今日いた方に聞いたら1学年20人くらいじゃないか。1~3歳が60人

くらいいるのでは。

(米村町長)

今日みたいなきっかけがやっぱり必要なと思う。それをこれからどうやって繋げていくのかなという中で、今後の広げ方は自分の中で感じたところはあるか。

(牧内氏)

広げ方は今回すごくお母さんたちが盛り上がっていたので、次に集まる機会かお試しで仕事をしてみませんか？と言える機会が結構1か月未満とか1か月以内ぐらいにあればいいなと思ってはいる。

続けてあげないと、今日は集まったのですごい盛り上がり働きたいという思いで帰ったので、それがなくなる前にもう1回何かしてあげた方がいいのではとすごく感じている。

(米村町長)

今日とったアンケートの集計は牧内さんがするのか。

(事務局)

こちらで。

(米村町長)

その集計の結果を皆さんにフィードバックしたりするのか。

(事務局)

はい。

(米村町長)

それをきっかけに次どういう風にしていくかということをもた検討をしないといけないとだめ。でもやっぱり意欲はあるようだ。

(手塚氏)

起業したいとっていた。

(牧内氏)

NPOを立ち上げるにはどうしたらいいかという質問とか。

(米村町長)

そういうことに対してのお悩みに答えられるようなものもちょっと行政では一番苦手なパターン。

(渡邊氏)

起業に関しては全方位型で支援させていただいていて、今日参加していた中の一人も私が創業を進めた。それで将来自分で会社を造りたいからそのために勉強をしたい、今やっているイベントとかをやっている方なので個人事業主としてローンチした方がいいということでいろいろ支援させていただいている。

(事務局)

そういった方はテレワークということではないと思う。町が支援するところではない。そこまでできないけど、お小遣い程度なり、月数万円を生活費の足しにしていきたいというところがターゲットになってくるのかなと。

(米村町長)

掘み的には今日は非常に有意義だったという考え方でいいのでは。ただ、やっぱり起業したいといった熱い思いを持っていたり、また子育てをしている中での本当に自分の時間、2時間とか3時間どうしてもパートに出るようなことも不可能だということでどういう風にそういうものを繋げていける

かというところだとか。

またこれから新しい話になっていると思うけど社協にも入ってもらったり、今度どういう風な仕事をしていうことがまた生まれてくるかっていう形になると思うから、でも結果は非常に良かったってことでよいか。非常にそういう部分では期待ができるっていうこと。

(渡邊氏)

補足させていただくと、この後グランドデザインの方をお話しさせていただくのだが、まず最初に4人くらいでテレワークをスタートさせたいという思いがあった。私も外部の人間でこの町に来て4か月目で思うのが、地元の企業の方とかこの辺の地域性なのか分からないのだが、1回様子を見るみたいな感じが多い。今日もセミナー開始10時なのに集まりが非常にギリギリ。そういう土地柄なのかなと思う。長野とかでやるともう30分前、1時間前とかからみんな来る。前も違うセミナーをやった時に本当に1分前でみんな集まるくらいなので、とにかく小規模でもいいからスタートして、その様子を見て後が繋がってくるのかなと思う。やりたいっていう潜在数はいっぱいいる。確実に4人でスタートしてその情報をアウトプットしていけば、その下の方の層にいる人たちが自然についてくると思う。

(3) 立科町テレワーク推進事業のグランドデザインについて

※事務局から資料3の説明

※社協の中山事務局長から資料4の説明し、その後出席者から発信

(松山氏)

障害者の就労支援というような部分、地方で障害持たれてなかなかこう実力を発揮できないような人がどんな状態にいるのかまったくわからないものだから、もう少しまた機会があれば詳しくお話聞かせてほしいと思う。例えば、パソコンも触れる方は中にはいるのか。

(中山氏)

いる。

(松山氏)

そうすると、いろんなアイデアとか思いだとかそういったことを発揮できなくてストレスを感じながら、家の中にいる人もいるのか。

(中山氏)

触れるといっても、いろいろ企ててお願いした部類があったのだが、工賃計算してくれとかやったのだが、スタッフ側と本人側との意思疎通がまだまだはっきりしない部分があった。いじれるとは思いますが就労という形で持っていくのなら、ある程度個別的な支援をしながら位置づけして、グループでも構わないと思うが、小規模で意思疎通を図りながら持っていく必要があるということ。ここに通っている方はある程度状況がわかるが、町内で通っていない方というのも非常に多くいると思うので、その発掘については専門職という形で、ある程度訪問活動を加えながら意思確認をやっていく必要があるかなと。でないこの形はたぶんなかなか底辺の広がりっていうのが生まれずらいのではと感じている。

(松山氏)

確かにそう。そういう施設に足を運ばないっていう方が発達障害なのかわからないが発揮できるっ

ていうのを探していく。大規模な都市になるとますます身動き取れない人がたくさんいると思うが、住み慣れたこの地でという考え方で、そういう方々も十分活躍していただくようにというのが趣旨だと思う。ぜひ口コミだとかでもそういう知り合いがいれば、仕事ができる人の発掘をしながら、同時に結局は仕事が必要になっていくのでそういったことも一緒にできるようなこと、ちょっと少しずつ考えていって、それを行政としては非常に重要なことだと思うので、少しでも身になるというか前例になるようなことに取り組んでいければいいと思う。

(米村町長)

行政としても発掘をしていかないといけない。社協の会長をやっている中で非常に感じていることは、今、国も共生型の社会を目指していきましょう、分け隔てなく障壁を排除していきながらみんなで支え合える地域づくりにしていきましょう、というような話が、以前、県でやった国保連の会議の中で、県の副支部長がそういう話をされていた。その裏には、これから始まってくる介護保険だとか保険制度の構築っていうものが大きく作用はしてくるのかなど。そうなった時に今までは弱者と言われていた人も自ら仕事をしていこうというようなそういう社会を作っていかなければいけないのかなというところ。しかし、それがやっぱり立科町では埋もれているところが非常に多い。今こうやって社協の中山局長もいったみたいに、ふれあい園でもそうなのだが、来てくれる子たちはまだいい。それ以外の埋もれている人たちがどれくらいいるのかということに対して、いかに発掘していくのか。松山さんが言われているみたいに、どうやってそれを掘り起こしていくかっていうのが、行政もある程度介入をしていかないといけない。地域包括支援センターというのが今役場の中にある。ただそれだけでいいのかっていうところは行政としても考えて行かないといけない。この企業進出型、雇用促進型と福祉型というものが結局、行政としてどういう風にサポートしていきながらやっていくか。あなたたちやっていきなさいでは何も変わらないというところが、この福祉の部類に関してはやはり行政も入り込んでいかなければできないというのがある。それは、発掘をする、どういう人がどういう所において今どういう生活を送ってどうしているかという。これは障害っていうのは生まれながらにして障害がある方と、やはり不慮の事故によって障害を抱えてしまった人、それによって大きく変わってくるのかなという所が、まだたぶん、把握できていない。

(中山氏)

おっしゃる通りで、今まで慣れた暮らし方から、こういうのがあるよっていてもこれは全然話にならないっていう風に思っている。ですので、個人へ訪問して、人によっては何回も。ちょっと難しいかなとかそういう判断をしていく訪問というのはしっかりとやっていく必要が十分に感じる。予定では30年5月くらいから取り組む予定なのだが、できたら冬のうちから足がかりを作っていく必要を感じている。

(松山氏)

若手の例えば30代40代の人達の数もそれなりにいる？

(中山氏)

いると思う。ただ、内部疾患で障害を持っている人も手帳を持っているので、そういう方たちは目に見えないと思う。農家をやったり、自分の家業をやったりしているので、その辺は見定めをしっかりとっていく。そのためにも理解をしていかなければいけないかなと思う。

(松山氏)

事故にあったり、通常の生活から急転直下みたいな状態だと思うが、そういう人たちはとにかく立

ち直りたいという気持ちがあるし、スポーツの世界ではすごく元気で、パワフルすぎる人たちもいる。パソコンだったらできるの当たり前だし沢山いるのだが、スポーツからだとか立科町から趣味的なものだとか活躍されているような元気な人から、仕事をしてもらえそうな人っていうのも当たっていくのは難しいのか。

(中山氏)

370名おいでになる中で、一人一人行政も踏まえて把握できているかと言ったらたぶん無理だと思う。だからそこをしっかりとつぶしていく必要があるかなと思う。でないと次の段階への構想みたいなものが生まれてこないのでは。ただ、全部やったからできるというものではない。できるところから始めいくというのが前提条件ではないかと思う。

(松山氏)

把握というのは、例えば障害をお持ちの方は何か動きたいとか働きたいとか、スポーツしたりとか自分の欲望、欲求を何かこうしてほしいという思いがあれば誰に言うのか。

(中山氏)

基本的には就労の関係については、生活困難っていうのがあり、佐久市にある圏域をまたいだコーディネーターみたいな方がおいでになる。障害者の相談支援の部類を3つの障害に分かれて一括に受け取る圏域でやっているところもある。直接行かれる方もいるし、こちらから通して今までこういう話が全然なかったものだから、そちらを直接紹介していくっていう方法もあったので、やっぱりそこらへんのところはここでワンストップを一回かけて、そういった方がおいでになるようなら行政から入っていく、社協から入っていく両方あるので共通認識としていかないといけない。

(松山氏)

障害をお持ちの方の支援という仕事が、市町村の仕事の部分もあるでしょうし、社協のでもあるでしょうし、この辺は県の仕事だとかという風な部分もあるのか。

(中山氏)

小さい町村になると、担当する部署が限られた形で、全部やらなければいけないのだが、やっぱりそのところで、大きい市は部署ごとに結構係官みたいなものが市なんか特にいると思う。町村になると、まとめてやるという傾向があるので長野県には圏域でそういったものを一手に受けるといった形をとってやってきたというのが行政的な形の流れだと思う。

(事務局)

今まで障害者の方の支援になると、就労にまでなかなか意識がないという部分がある。どちらかというと生活支援というものがメインにきていて、就労というのがその次の支援の話になってくる。その支援っていうのが町でも障害者就労を行政でやるということがないと思う。町民課でもやってないし、手帳の発行とか福祉サービスのご案内とかはする。障害者の就労は町では今までやっていない。

(松山氏)

例えば車いすの状態でも通勤困難というので自宅で仕事する。であればテレワークでいいではないかというのが使っていただければっていう普通の発想。今回テレワークの推進会議ということで、障害者の就労支援をビジネスをうまく使ってそれで仕事したい人の気持ちを組んであげて活躍できる場を作ってあげるという行政としても民間で立ち上げる立場としてもやらなければならないと思っている。ぜひこういう方々がこのあたりでどんな人がどんな風に生活しているっていうようなこととその人の気持ちがわかるようなことが少しでもあれば知っていききたい。聞けるのであればそういう人の話を聞

きながら何が有効かっていうことを進めていくのが、何とかこの機会にタイミングというか話が進むようなことが出来ればいろいろみんなで協力してあげていい実例を作っていくのが大事かと思うので、ぜひまた勉強させてほしい。

(米村町長)

親御さんの話を聞くと、子供たちはだんだん年を取り、それにつれて親も年をとる。そうなった時にこの子はこれから先どうやって生きていくのだろうかという不安を抱えている方たちがたくさんいる。それに対して適切な答えを今、行政も社協もできないっていうのが事実だと思う。ただそれではいけない。これから行政もしっかり考えていかないと、そういう人たちも人間としての尊厳を持ってこの世に生まれてきたっていう中では、福祉っていう中でのくくりで、こういう補助が出てるからいいでしょってことではないと思う。自ら社会参加をすることで、生きていく喜びだとか社会が生まれてくるのかなとか、大きな課題だと思う。これがテレワーク事業の中で一角として、やはりやっていくということはできるかできないか非常に難しいとは思いますが諦めないで続けて行くことが必要かなと思う。今後色々な方面で社協の方もいろいろ知恵を出しながら、また行政としてもどんどん地域に出て行きながら課題を吸い上げられるような枠組みを作っていければ。

(事務局)

局長に伺いたい。資料4では平均工賃一人月額2万円。県平均に比べると高く素晴らしいと思うが、他に業務を何か掛け持ちでもっているわけではないのか。月額で他に収入源が何かあるのか。

(中山氏)

年金もらっている人。

(事務局)

どれくらいの額か。

(中山氏)

1級で年間95万くらい。

(事務局)

そうするとお一人当たり月10万いかないくらいの収入が今の現状ではあるということですね。テレワークやるときに、毎月どれくらいの仕事量がお一人に対してゴール地点として目指すべきなのかという所の計算のために伺った。

(米村町長)

三本立てで行くってことでいいのか。

(事務局)

企業進出型と雇用創出型を走らせて、目指すところが社会福祉型テレワークの実現。

(山浦副町長)

立科のテレワーク事業のグランドデザインとすれば、今町長や事務局からお話があったように、企業進出型と雇用創出型、社会福祉型テレワークというものも非常に独自性があるのかなと思う。そんな形で進めていきたいと思うので皆さんの方からもご提案、ご指導いただければと思いますのでよろしくお願ひしたい。

(4) 当面の課題と取組について

※事務局から資料5, 6, 7の説明

(5) おためしナガノ(県事業)について

※事務局から資料8の説明し、その後出席者から発言

(蒔田氏)

雇用創出型についてどういう風に仕事を生み出せるかについて、当面トライアルとしてということになるかと思うが、その後どういう風に仕事を生み出していくかあるいは誰が仕事を取ってくるのか教えて欲しい。

(事務局)

まず、どういう仕事を誰がとってくるのかということですが、未定の部分が多々ある。というのは、仕事を取れる母体、契約を結べる母体が立科町にない。塩尻市はなぜできているかという、塩尻市振興公社というものがあって、そこに市の職員が入ったり、プロパーの方もいらっしゃるのだが、仕事を市内の企業さん周りとかしてかなり営業をかけているということ。徐々に信頼を作っていくって6年目7年目でやっとかなり増えてきたというところ。立科町ではそういう母体がどこになるのか、今商工会さんを想定しているのだが、そういうところをやりながら動かしながら考えていく必要があるのかなと思っている。そこで仕事を取ってくることも恐らく当面は役場職員、担当がやっていく話になると思う。

(渡邊氏)

町内の企業も考えている。ハローワークのサイトを検索すると簡単なデータ入力とか、正社員の募集が出ている。いつまでも出ている。というのは決まらないと思う。正社員で決まらないから正職員にしたり待遇を厚くもったりとかして何とかマッチングしていると思う。であれば正社員のデータ入力の部分をこちらで請け負えないか、もしくは一つ企業で出たのが営業補助でルートサービスとデータ入力みたいなのがあった。であればルートサービス自体はパートさんで雇っていただいて、データ入力の部分だけテレワークで請け負えないかみたいな形。

(蒔田氏)

地方創生で結構有名になりつつある事例として、鹿児島県奄美市がランサーズと組んで日本で最も働きやすい島をつくる計画があって、こういう仕事を頼みたいって人とかこういう仕事ができますよっていうことをウェブ上でマッチングするっていうサービスをやっている。それは地方として創生事業をやっているんで仕事はあると思う。仕事はどうやってとってくるかと考えた場合に、一般企業と提携をして何らかの形を模索するっていうのもありなのかな。いろんな可能性を考えて。

(渡邊氏)

ランサーズも初めは検討していた。しかしライバルが多すぎて。一つの案件に対しての。オフィシャルみたいに組めればいいですけど。

(事務局)

クラウドワークを考えたときに、賃金の問題がある。買ったたかれるというか、低賃金で1時間やって100円とか。そこを主体として進めていいのかどうかという所に非常に迷いがある。

(蒔田氏)

自治体が主体になっているのであれば仕事の選別ができる。

(米村町長)

ママワーカーに関してはここが最初の一步が肝心だっていう考え方でいいんだよね。ここが発信地

としてどれだけしっかりできるかによって、波及効果を生むか生まないかというところのポイントになってくるっていう考え方でいいんだよね。

(渡邊氏)

そうですね。まだアンケートを全部読めていないのと、テープおこし、二つのテーブルでやったのを聞いて、最初の4人になる人たちがいるのかいないのかのところの判断がまだできていない。いればこのスケジュールにのっとしてスタートできる。

(米村町長)

その場合には仕事をやはり作っておかなければならないという考え方でいいんだよね。だからそこが塩尻の場合は公社がしっかりと用意をして、スターターとしてのトライアル業務をやることによって繋げて行くって考え方でいいんだよね。最初はやっぱり何か考えないといけないってこと。後はそこは行政の力だな。予算も無ければお金が出てこないわけだから。

予定だと10月くらいからって話。ということはもう残すところ2か月。その中でどういう風にしていくかってことと、枠組みの中でも行政の場合は予算ありきというところもあるので、これから9月の議会があるときに補正でやるのか、また来年度って話になるとまったくこれからは逸脱しちゃって平成30年とかのスタートになると熱が冷めちゃう。危惧をするので何とかその辺は行政としても考えていかないといけない。企画を中心に各課に投げるものなのかどうするのか作戦を練ってもらえれば、各課の方で話をしたり提案をしたりしたい。9月の補正にあげるのは非常に時間的にタイトなのでその辺しっかりと見極めて計画を立てて欲しい。高齢者ワーカーはどんな感じなのか。

(事務局)

シルバー人材センターさんにも話はしてある。ただ、まだそこまでシルバー人材センターさんの中でやれる人いるの？って感じだったので。その辺はちゃんと説明させていただいている。そこは追々。

(牧内氏)

資料5のスケジュールでママワーカーさんがトライアル業務って来年からって言うてあるのだが、その前に託児も見えるようにいれておかないと、託児の面が一番不安の部分。同じこのスペースで子供を遊ぶ場所があって働くって無理だねと塩尻市振興公社の柳澤さんと話をしていて、別の場所できっちり預かれるスペースがあって初めて働けるからと非常に多くのママさんたち話があった。そこは同じくらい重要な問題だと思う。考えて行かないといけないと思う。

(米村町長)

この辺はどういう考えなのか。どうしてもテレワークの考え方は出先オフィスみたいな。こういうオフィスじゃなければ仕事できないというような考え方も持っていたのだが、子育て世帯のテレワークって自宅でもいいのかなと思っている。なんでかと言ったら化粧しなくてよい、服もスエットでいい。こういう所に出てくると、まずお母さんは化粧しなくてはいけない。子供をどこかに預けないといけないとなったら長続きするのかなと思う。そうして出てきたが2時間しか働けないのであれば、自宅でやれるって中で、子供が泣こうが騒ごうがそこらへんで寝てようが家ってほしいそんなもの。

(牧内氏)

前の会社でも家ワークがあった。家ワークと言っても外に出る。同じ場所で集中して働けない。柳澤さんの話だと、塩尻市でも自宅で仕事するのも試してみたが、集中して働けないみたい。出て、通勤時間が短いのがメリット。ここに来て、働いて、さらに今日手塚さんが言ったみたいにチームで働くことで生産性が上がるし、スキルも上がってより良い仕事ができるってことがあるので、スキルが

上がったら自宅で働けるようにしてあげてもいいかも。

(米村町長)

その意識が変わったっていうのが、ネットワンさんに行った時にどういう場所でも仕事ができるんですよっていうのを目の当たりにしたときに、自分の机がないと仕事できませんとか、自分の机がないと無理ですっていうそういう風な、そこからそろそろ飛び出してもいいのかな。その方が安心できるっていうのは、生産性が上がっているような形になってくる。仕事っていうのは自分がやれるときにいかに集中してやるかっていう、それが1時間でもいい、30分でもいい。それを2時間も3時間も4時間も拘束するからそこで集中しなければいけないから、みんなで監修しながらやると、あの人仕事やっているから私もしなければいけないっていう発想なのかな。ネットワンさんに行ったときに目から鱗じゃないけど、こんな役場が出来ればいいよと思うくらい。行政的な仕事をやるときにはセキュリティの問題があるから、こういう所じゃないとダメとか。牧内さんが言うのもわかる。どれが正解か分からない。働きながら子育てしている親が来ると今はどこも託児所を付けている。託児があるから仕事ができるみたいな。そういう風なことを考えるけどちょっと視点を変えても面白いのかな。みんなで議論していけばいい。

(事務局)

託児の話は重要な課題で、解決しなければいけないものだとは思っている。ただ一朝一夕に簡単にじゃあ託児施設を作ってやりましょうってわけにもいかないのが行政のやり方としては当然ある。保育施設が現にあって、未満児を預かる施設をすぐ作るっていうのがなかなか難しいのではという感覚でいる。

(米村町長)

何とかしなければいけないけど、その受け皿がどうしても今作れないっていう中で徐々にそこを広げていきましょう。こういうことをやるからそれを作ってしまうとそれでいいじゃないっていうのは、考えている未満児保育の受け入れをして行こうっていうのはちょっと違う。皆さんの熱い要望もあるのはわかる。未満児を受け入れてさえくればすぐにでも働くっていう思いと、一方では三歳までしっかり親が見なさいっていうような意見の人たちもいっぱいいるっていうことも事実。そういう中で折り合いをつけながら解決をしていきたいと思う。

(事務局)

仕事を出すクライアント側さんからの視点だと自宅は逆にNG。

ちゃんとセキュリティのある部屋で管理されたパソコンを使ってやってもらう。そうしないと仕事は出せないというところが多い。自宅でご自身のパソコンを使ってやるというのは難しいのだろうと。ただ、この10月からの話はトライアル業務としてなので、その部分については自宅でも出来ないことはないと思っている。自宅でもできるような業務で進めたいと思っている。もちろん週に何回かはここに集まってもらってというのはあるのだろうが、ご自宅でもできる状況で進めたい。

(牧内氏)

ここの将来のどこかに託児のことが書かれていたほうがいいなと思っただけ。どの時期でもいい。将来的に塩尻市さんみたいにするようなイメージで3年間書いちゃったのでそこから見ると多分、誰がやるにしてもそこは入れないと、頑張ってもったけど結局ママさん働けませんってみんななくなっちゃったらよくないなと。

(事務局)

ちなみに塩尻市はNPO法人が近くでやっている。ママさんが預ける時の利用料について、塩尻市振興公社からお支払いしている。

(牧内氏)

市が託児のお金を負担しているのは今日も言っていた。行政でも少し稼働する前はそういう負担をしないとなかなか始められないねって。どんな形でも実現できればなど。

(松山氏)

聞きながら脳裏を「ママスクエア」が浮かんだのだが、保育の仕方として確かに、行政の支援ができるというのはあまりに偏ったことだとわかる。やり方として、少しママスクエア的な動かし方、保育施設ではなくてママ達がいながら仕事をしているんだという発想。うまく流用する様なモデル、行政は多くを支援しているのではなくて、オフィスを貸しているだけですというようなことで動けばいいような気がする。

(米村町長)

そういう思いが湧いてくればいい。アイデアが職員の方から挙がってくるのが必要だと思う。支援って中でのそれも一つの雇用創出っていう考え方。

(松山氏)

施設整備って、この後？

(事務局)

この資料5のケのふるさとテレワーク推進事業っていうのが主にハードの改修費になる。ただソフトはまったくでないでそれについてクの市町創生推進交付金を使っていこうというイメージ。どういった空間にして行こうかというのはまだそこまで話はできていない状況。

(松山氏)

障害者の就労支援も含めて取りに行くってこともあると思うので、その時にはこの会社だけでなく、社協さんか近隣の公民館だとか活用できる場所とかを使って何か仕事をお願いすることに並行して考えていくとそれはそれでありかもしれない。

(事務局)

先日建物を見させてもらってその話もして、使えるような場所ないですかねってご案内いただいたところ。いろんな多様な人が一緒にその場にいるっていうことを実現したいなと思っている。とはいえ、こういったスペースでバリアフリーもエレベーターもないような建物なので出来ることは限られるだろうという所。

(6) その他

特になし

(山浦副町長)

それでは(4)と(5)の今後の事業スケジュールはこの辺にしておいて、また町の方で進めていきたいと思います。また皆さんにお示しをしながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(6) その他

特になし

(山浦副町長)

そうしましたら、次回推進会議ということではありますが、テレワーク推進連続セミナーに合わせて、今回午前中セミナーやって午後会議というようなイメージでありますが10月の中旬ということで。

(米村町長)

会議は1時半くらいでいい？

(山浦副町長)

時間はまた今日と同じくらいの時間ということですが10月の中旬。事務局が調整しますのでよろしくをお願いします。

(米村町長)

高畑さんご感想を。

(高畑氏)

他もだいたい最初はこんな感じで、具体的に、どんな方がワーカーにいらっしゃるとかわかればもっといろいろお話しできるんですけど、そこまでまだ突っこめないで。これからどんどん盛り上がっていくと思います。よろしくをお願いします。

(山浦副町長)

それでは特に他にないようでありましたら、以上で本日の協議については終了したいと思います。それでは司会の方をお願いします。

(司会)

皆さんありがとうございました。今回会議の中でも改めて確認させていただきました通り、立科町の方では企業進出型、雇用創出型の方で独自性ということで社会福祉型テレワークの推進ということで会議の中でもいろいろな課題が出てきましたけれども、お示したスケジュールを目指して今後とも事業の方を推進していきたいと思っております。皆様方にはこれからもいろいろご助言いただきますようよろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。